



# 工高タイムス

北海道旭川工業  
高等学校新聞局

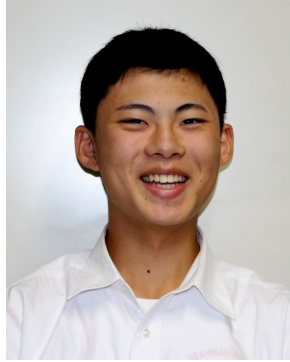
〒078-8804  
北海道旭川市緑が丘  
東4条1丁目1-1

発行人(局長)  
村岡 良祐  
(工業化学科3年)

## 生徒会役員選挙

# 会長に澤田君

## アイスの自販機設置に意欲



新会長の澤田由陽君

生徒会役員選挙の立会演説会と投票が9月17日に行なわれた。会長には3人が立候補し投票の結果、澤田由陽君(電2)が359票で当選した。小杉光二郎君(建2)が122票、下村夏輝君(建2)が82票だった。今回から立候補者が1人の場合、自動的に信任となる。また、立候補者がいない役職は再選挙となる。

生徒会長に当選した澤田君は「設置のめどは立っているが、契約の点で時間がかかるため生徒の皆さんには待たせしてしまう」と話した。また校則改定については「他の校則を考慮しつつ、現在の校則を今の時代に合ったものにしていきたい。旭工は就職を希望する生徒が多く、い

## 新生徒会役員

会長	澤田 宙陽(電2)
副会長	谷 藍衣(化2)
書記長	佐藤 拓海(化2)
書記次長	浪岡 凌玖(土1)
会計長	盛永 優仁(建2)
会計次長	島田 大輝(建1)
生徒会誌編集委員長	(再選挙)
体育委員長	田中 陽斗(建1)
行事委員長	(再選挙)
議会議長	細川 大翔(土2)
議会副議長	矢三竜乃進(電2)
監査委員長	架田 祥喜(情2)
監査副委員長	越智 勇太(土2)

## 自転車事故を防止

### 局説

皆さんは自転車に乗るときに安全を気にしているだろうか。生徒指導部長の上村健太先生によると、全校生徒652人中95%の約600人が自転車通学をしている。1学期から夏休みまでの事故の件数は10人程度で大きな事故はなかった。ほとんどの事故はハンドル操作を誤ったことによる単独事故だけがを起している。上村先生は「もし事故が起きたと

## 運転中イヤホンをつけない

事故が起らないための対処法として上村先生は「交通ルールを守る、スピードを出し過ぎないようにして自転車に乗ろう。」「自分の相手が確認、11番や110番をして事故処理を止めるようにする。」「止まることはスマートフォンやイヤホンの使用しながらの運転だ」と語った。イヤホンをつけないながらの運転は車の音が聞こえづらくなるため、事故につながるリスクが高まる。」「注意点を心掛けることで事故やけがのリスクが少なくなる。気を付けて自転車に乗ろう。」

## ものづくり コンテスト

### 電子機械科

### 旋盤作業部門

## 落ち着いて作業できた 寸法の精度を高める

電子機械科3年生の千葉龍之介君と2年生の須田奏太君が8月19〜20日に札幌工業高校で行なわれた第25回ものづくりコンテスト全国大会北海

道ブロック旋盤作業部門に出場し、千葉君が8位、須田君が9位となった。

千葉君は「順位があまり高くない悔しかったが、旭工の代表として出場し後輩と普段から練習できて良い思い出になった。いつもの練習通りに

ねじ切りをする千葉龍之介君



ねじ切りをする千葉龍之介君

「順位があまり高くない悔しかったが、旭工の代表として出場し後輩と普段から練習できて良い思い出になった。いつもの練習通りにねじ切りをする千葉龍之介君」

「順位があまり高くない悔しかったが、旭工の代表として出場し後輩と普段から練習できて良い思い出になった。いつもの練習通りにねじ切りをする千葉龍之介君」

## 日本文化を体験

茶道部長

栢田武君(建3)



特技は木登り

## 旭工 ライフ

茶道部は4階の作法室で水曜日と木曜日の週2回、放課後の17時半まで活動している。部員は3年生2人、お茶を点てたりお菓子を食べたり、作法や礼儀を学んでいる。

小学校1年生の頃から茶道を習っていたので、高校でもしようと思いついて入部した。高校ではこれまで習って

いた裏千家と異なり、表千家なのでお茶の点て方や歩き方、道具の使い方など作法が違った。しかし、流派は違っても「心」は同じだ。

茶道の魅力はなんといっても日本の文化を体験することができることだ。そして茶道のコツは客やお菓子の組み合わせでお茶の点て方を変えること。上手にお茶を点てて部員や先生に飲んでもらい喜んでもらえることにやりがいを感じる。

茶道部には1、2年生がいないので、皆さん茶道部に入部し、お茶を習ってみませんか。

つても面接に臨める身だしなみを整えなくてははいけない。少しでも生徒の要望に応えつつ、バランスをとって見直しを図りたい」と話した。生徒の意見を収集する方法として

グーグルフォームを利用して月一回行なうという。

校則改定の注意点について「今あるルールを変えるには先生や地域の方から信頼を得ることが前提なので、普段の

生活から自分を見直し、意見できるように学校づくりに協力してほしい」と話した。

次期の生徒会役員の最初の行事は10月10日の旭工オリンピックとなる。

生活から自分を見直し、意見できるように学校づくりに協力してほしい」と話した。



皆さんは思い出のあるお店はあるだろうか。9月25日に閉店するレストランOLIVE豊岡店について語る▼OLIVEとは旭川市豊岡にあるレストランで創業から長年、地元住民に親しまれている。メニューの数が非常に多く、定食類、丼物、麺類、パフェなど、洋食・和食を問わず様々な料理を提供している。普通盛りでも他店の大盛り級と評価されるほどのボリュームがあり、その人気の一因とされている▼初めて訪れたのは中学1年生の時、家族と一緒に食べた醤油ラーメンの味は今でも忘れられず、温かい雰囲気とともに大切な思い出となっている。店内は落ち着いた空間で居心地が良く、料理を待つ時間さえ楽しかったことも覚えている▼9月11日に友達と訪れてみると、1時間ほど外で並んで待つことになった。店内は大勢の人でにぎわい、改めて地元の人に愛されていることを感じた。私はミートカツスバゲッティをたいたら、さらに友達が食べきれなかったハンバーグカレーもいただいた。ボリュームのある料理に驚きつつ、笑い合いつつ友達と食事をした時間は特別なものとなった▼今度はもう一度家族と一緒に訪れ、感謝の気持ちを込めて食事を楽しみたいと思う。長年地域に親しまれてきたお店だからこそ、閉店前にぜひ多くの人に訪れてもらいたい思い出を作りたい。きっと誰にとっても心に残るひとときになるだろう。(化1小寺)



支部美術展

# 7人が全道へ出場

## 中嶋君 死後の世界をイメージ

美術部は8月26～28日に旭川市民文化会館で行なわれた高文連上川支部美術展・研究大会で谷藍衣さん(化2)と古俣權君(建2)、中嶋未留人君(情1)が入選し、須田智吉君(化3)と天上勇志君(機3)、金井美咲弥さん(情1)、鈴木結人君(情1)が佳作に入った。7人は10月9～10日に札幌市で行なわれる全道大会に出場し、入選の3人の作品が展覧される。

「とれたて」を描いた谷さんは「美術展では苦手な構図など、やったことのないこと

に挑戦した」と語った。「ワンダーフォーゲル」を描いた古俣君は「油絵具と筆、

新聞紙を使って油絵『ワンダーフォーゲル』を描き上げた。時間が足りなく8割程度の完成度で出品した。構想や下書きに時間をかけていたので、美術展で審査員から一定の評価が得られて良かった」と話した。また「他校の美術部員から自分の画風が評価されるか不安だったが、多くの生徒から高く評価されて良かった」と語った。

と語った。「幻想」を描いた中嶋君は「高校から美術部に入って初めて大会に出品した。まさか自分の作品が入選するとは思わなかった。美術展を見て、圧倒されたり感動したり色々あってとても勉強になった。他校生との交流や、先生方と生徒からの批評などもあったので、次回につなげられそうなことがいっぱいあった。作品は死後の世界をイメージし、誰も知らない、誰も見たことはないが、ないからこそその自由な世界を描いた。色使いや色の表現などとても苦労した」と語った。



谷藍衣さんの「とれたて」



古俣權君の「ワンダーフォーゲル」



中嶋未留人君の「幻想」

### 第80回純正展

## 谷さんが奨励賞 展示会で年上の画家と交流

美術部は8月14～21日に旭川市民文化会館で行なわれた第80回純正展に出品して、谷藍衣さん(化2)がジュネス奨励賞を受賞、古俣權君(建

2)が入選した。純正展は大人の方の出品が多い。谷さんは油絵「トキ子」を出品。「展示会では年上の画家さんたちから学ぶことが多く、とてもためになった」と話した。

古俣權君は油絵「ヌーダ・ヴェリタス」を出品。「作品制作から1年ほど経っており、今よりもちせつな部分が目立つ

ていたのを、修正を加えた。白色を多用し全体的にぼたっとした感じになっているので、色彩の使い方をもう少し勉強した方が良かったと思った。構図に力を入れ、シャワーのホースを曲げながら大胆に配置することで奥行きを演出した。初めて描いた油絵だったこともあり、絵具の使い方や表現に苦労した」と話した。

### ピア・サポート

## 進学・就職 面接対策を実施 質問の答え方を学ぶ



サイコロトークをする参加者

ピア・サポートを広める会主催の「進学・就職面接対策」が8月27～28日の放課後に小会議室で行なわれ、3年生が約20人参加した。

参加した大脇康太郎君(電3)は「担任の先生に教えてもらい練習しておきたいと思って参加した。SDGsや世界の常識について答えるのが難しかった。趣味の答え方で結

論を先に言う大切さを学んだ。普段敬語を使わないので言葉遣いを改善する必要があるが、練習を通して志望動機に自信がついた」と語った。会員の覺間健心君(情2)は「質問を作成するとき、面接を受ける人の気持ちになって考えた。質問に対しては具体的に答え、難しい質問で答えにくそうなときは、素直に言うて良いことや、家で考え直すことも大切だと伝えた。後輩へのアドバイスは自信を持って大きな声で答えてほしい」と語った。

### 特集 戦後80年④

## 上官が兵隊にビンタ 弱兵は座して死を待つ

(第525号からの続き)

昭和20年12月29日私はペトロスクの病院に収容された。危うく墓標になるところを入院して助かった。何よりも入浴してシラミと別れたのがうれしかった。所持品はみんな取られたが少しも惜しくなかった。

患者の中には20代の現役から30、40代の補充兵までいたが、少し元気が出てくると腹が減って困った。

翌年5月5日十余人一緒に退院した。チタへ行く貨車の中からあの忌まわしいハラグンを垣間見た。そのとき一人の兵隊が立ち上がった。「この中に下士官はいないか。いたら俺が殺してやる」怨念に燃える拳は怒りに震えていた。この血を吐くような叫びの中にハラグンのすべてが凝縮されていたと思う。

### パンが平等に配分

最も条件の悪い所に向けたということである。ここではパンは切ってから一つひとつ手製のてんびんにかけ、その上さらにくじ引きにしていたから食うまでに時間がかかった。班長も兵隊もすべて平等で、弱兵をいたわるゆとりもなかった。作業は民間人との接触が多かったが皆親切だった。女学生がパンをくれたり、老婆からルーブル紙幣をもらったりした。入浴もソ連人と一緒だが、人種の多い国のためか違和感も全くなかった。

チタに一月月いて6月13日ダモイ(帰国)の貨車に乗った。貨車には各収容所から十数人ぐらいずつ弱兵が集められていた。半信半

### 天国から地獄へ

しかし船は27日北朝鮮の清津に着いた。ここから貨車できた古茂山はまさに地獄であった。狭い所に一万人も押し込まれ死者は一日百人を数えた。ソ連はシベリアで使いものにならなくなった兵隊と、北朝鮮で終戦を迎えたままの兵隊の入れ替えを図った。そして両者の顔を合わせないようにしながらピストン輸送を急いだ。そのため、一時的に収容した古茂山は弱兵が逃げ回った。

(次号へ続く)